



新しい年を迎えて

会長 山崎 拓



会員の皆さま、賛助会員の企業・団体の皆さま、明けておめでとうございませう。皆さまにとつて令和4年がすばらしい年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

昨年は前年に引き続き新型コロナウイルス感染症にさらされ、東京オリンピックの無観客開催など今までに例を見ない行動の自粛が要請され、本会でも重要な行事である歴代藩主の法要をはじめ諸行事を中止するなど会員の皆さまには申し訳ない気持ちでいっぱいです。9月以降はコロナの状況も少し落ち着きを取り戻し、文化講演会も人数を制限しての開催ではありましたが開催でき、11月には感染防止を図った上で恒例の史跡巡りを実施することができました。

今年8月には長政公の第400回遠忌を執り行います。会員の皆さまが一堂に会して初代藩主のご遺徳と偉業を顕彰したいと考えております。来年には没後400年祭の式典を郡基博理事を実行委員長に、常任理事をメンバーとした実行委員会で計画しております。

また後世に伝えるものとして郷土の歴史を、①筑前入国以前の黒田氏、②福岡城の築城、③如水・長政の寺社庇護と領民の安寧、④職人・工匠集団・産業の育成、⑤明治以降の福岡の発展、家臣団の結成と政治経済・文化への寄与を

第32号
令和4年1月1日発行
発行者
一般社団法人 藤香会
事務局
092-724-0007
発行責任者
毛屋 嘉明

取りまとめた小冊子の出版を計画しています。どうか皆さま会員のかがたのご協力を切にお願いいたします。

最後になりましたが、当会の名誉会長である長高様を忠之公の法要にお招きし、会員の皆さまと親しく懇談する機会を持ちたいと存じます。新しい年が皆さまにとつて健康で活躍できる年となりますよう改めてお祈り申し上げます。

長政公第399回御忌法要

福岡藩初代藩主長政公の第399回御忌法要を崇福寺黒田家墓所にある長政公の墓前で執り行いました。今年も昨年に引き続きコロナ禍の中で理事のみの焼香・参拝となりました。会員の皆さまと一同に会することができなく、理事一同心苦しく思っております。炎天下、17名が参列し、読経の中で焼香・参拝を済ませました。焼香後には僧侶の表白があり、長政公の遺徳と歴代藩主を偲びました。



長政公法要で参詣する山崎会長



長政公法要で墓前に焼香する理事

長高様、メディアに登場



読売新聞の掲載された長高様の「解藩知県」記事

「家宝が結ぶ古里との縁」と題して、黒田家から福岡市に寄贈された金印、名鎗日本号などの国宝の品々が黒田家と古里・福岡を結びつけていることが説明されていました。

また「ブレイバック NHK大河ドラマ」(NHK出版刊)にも長高様が紹介されています。

史跡巡り・バスハイクを 開催しました

令和3年度の藤香会研修旅行が11月9日(火)に催されました。

今回の史跡巡りは糸島地区の旧福岡藩関連の社寺が中心でした。「高祖神社」、「金龍寺」、「桜井神社」、「雷山千如寺」等。参加者は会員とその家族を含め計41名。

今回の訪問先が山の中の社寺が多かったため、大型バスが使用できずマイクロバス2台の分乗となりました



昼食時に挨拶される山崎会長

た。時々小雨が降る生憎の空模様でしたが、「雷山千如寺」では樹齢400年の大楓の葉が緑、橙、紅と色が変化している様も見ることができました。最後は、藤香会会員の「サスイ博多織」の工場・展示場の見学でした。



大かえてのある千如寺を訪問

岡部定一郎さんを偲ぶ

理事 天本孝久

昨年11月11日に90歳で亡くなられた会員の岡部定一郎さんは福岡の歴史の語り部として活躍されていきました。その博識や多彩な芸で、博多仁和振興会会長、那能津会会長などを勤められて町人文化の興隆に貢献されました。

私は10年ほど前に「博多なぞなぞ」を読んだのがお付き合いの初めです。昭和初年頃の博多商人の旦那衆が月例の会合でなぞかけを楽しみ、それを手書きの冊子にしていきました。達筆で博多弁を駆使して書かれた言葉は読むのも難解、意味を解するのにもまた難解なものでした。取りあえず活字にしたものを見て、これはこういう意味だと解説される岡部さんのお顔が忘れられません。いくぶん博多弁が理解できたように思われます。

一昨年の史跡巡りでは、「令和」の起源となつた坂本八幡宮で、令和の教えとして暦の話をいただきました。持統天皇が一年をいくつかに区切ってそれぞれに節供(節句)を決めて人々の安寧を祈ったことなどを説明されました。

もつと歴史・慣習・風俗について学ぶべきことが多かった。生き字引であった方をなくしたことは私にとつて痛恨の極みであります。どうか安らかに眠りください。合掌。

藤香会文化講演会



講演される久保千春先生

コロナ禍で延期されてきた講演会が10月15日(金)午後1時30分より福岡市博物館でおよそ100名の参加を得て開催されました。

会場の椅子はひとつおきに×マークが貼られており、聴衆者間の間隔が取られました。

山崎拓会長から挨拶と講師の久保千春中村学園大学長(元九州大学総長)の紹介があり、久保先生の講演が始まりました。

まず九州大学の沿革について、慶応3年に黒田藩が藩校として西洋医学の医学校・養生館を創設したこと、明治12年に福岡県立医学校と改称され、その後明治36年に京都帝国大学福岡医学校となったこと、明治44年になって九州帝国大学医科大学となったことなどの説明があった。黒田藩とは養生館の関わりのほか黒田奨学会からも医学生が給費を受けて勉学に励んだことなどの説明もされた。



久保先生の講演を聞く会員および一般の人たち

本題では、現代日本の現状を説明され、その中で人々が心理的にも身体的にも多くのストレスを受けている。それが日常生活習慣の乱れを起し、やがては身体疾患、心神病的反応、行動異常などを引き起こしている。これらのストレスに対応するため、こころへの気づき(意識・無意

識の不安を見つけること)、身体への気づき(四肢の重温感、マインドフルネス、呼吸法など)が大事で、それらに対応する身体的ケアでは十分な休養、睡眠、運動、栄養を摂ること、心理的ケアとして不安への対処、相談相手を持つ、信頼できる情報の入手や心の持ち方(人生観、価値観など)を変えてゆくことが必要と説かれた。また食事はマウスの実験により、低カロリーーの炭水化物を摂取が長寿になるそうである。

会員クリック②



理事 田中崇和

その昔、福岡地方には「田中・中村、犬の糞(何処にでも転がっている名字)」と言う言葉がありました。

確かに福岡には多い名字で、高校時代には同学年に田中姓は3名、中村姓は8名も居ました。

小学生の頃、婆様に「うちの名字は何でこんなありふれた名前なの?」と質問したら、「黒田のお殿様から頂戴したありがたい名字に何と言う事を言うのか!」とひどく叱られました。祖母の家は、黒田家が姫路、中津、福岡と移られて来た時に、一緒に付いて来た服の仕立職の家の出身だったようです。また祖母は野村望東尼に因んだ「モト」と言う名前だったので福岡藩・黒田家に対する思い入れが人一倍強かったです。

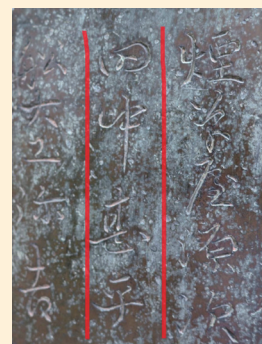
私の父方の先祖は江戸時代は博多の商人で堅町浜(たてちようはま)で船を持ち(長栄丸だったか)、福岡藩の米を大坂に運搬する廻船問屋をしていたように

ちよっとうんちく

明治25年 江島茂逸が編纂した「博多三傑傳(博文館)に博多商人の代表格である島井宗大賀宗九が室、神屋宗湛、大賀宗九が宗湛は天正15年に大坂

秀吉が博多再興のために布告した定書

城で初めて豊臣秀吉に謁見する。秀吉(関白)に虎豹の皮、黒布、沈香を献上して堺の茶匠5人とともに大坂城の茶席に呼ばれて、皆の前で「筑紫坊は何処に居るぞ」と問われ、同席の津田宗及が「此処に候する」と宗湛を指さす。そして「四十石(の茶壺)の茶を一服つくり飲ませよ。まさに宗湛を皆の前で持ち上げるさというところである」の面目躍如というところである。



田中理事の先祖の名前が刻された大宰府天満宮の「うその銅像」

江戸時代、堅町浜の隣町は博多の女郎屋街の旧柳町でした。家に当時の数百両(現在なら数千円)の証文が一枚残っていました。抵当は、間口何軒奥行何軒の土地・建物に加えて「女10人」と書かれていました。保証人の名前も数多く署名されていますが、結局この金を貸した女郎屋からは、取り損なった訳です。いくら江戸時代とはいっても「女十人」は女性の人権侵害も甚だしい内容です。

維新後は、田中家には商才のある子孫が生まれなかつたように、没落し、貧乏暮らしは150年後の私の代となっても変わりはありません。しかし江戸時代に先祖様

達が黒田のお殿様から受けたご恩を他の手段で少しでも返すべく、現在黒田奨学会と藤香会で理事の末席を汚させていただきます。藤香会では、これからも黒田家や福岡藩に因んだ講演会や研修旅行を色々企画したいと考えておりますので、今後とも会員の皆様方のご協力のほど宜しくお願いいたします。

- ★新規入会員紹介
1. 一般会員
 - 澤木 寛子 鹿島 和子
 - 上野 誠一 舞 秀和
 - 松永 啓志郎
 2. 賛助会員 50企業・団体

一地子諸役御免許之事
一日本国津々浦々において当津廻船自然損儀雖色々違乱坊不可有之事
など9カ条を定めて、いわば経済特区をつくった。
「博多三傑傳」のほか、「神屋宗湛日記」、「神屋宗湛の残した日記(海燕) 昭和57年1月9日 井伏鱒二に詳しく書かれている。